

天台宗宗務庁

一隅を照らす運動総本部 様

2016 年度ご支援報告書

- ・「生き直しの学校」チュンポーン校
- ・「生き直しの学校」カンチャナブリ校

ドゥアン・プラティープ財団

【はじめに～2016年度の報告にあたって】

天台宗一隅を照らす運動総本部様には、長年にわたり「生き直しの学校」チュンポー校の青年たちとカンチャナブリ校の子どもたちに対する様々な活動をご支援していただき、心より感謝申し上げます。いただいたご支援は各事業のスローガンである「新たな人生のために、信念を持ち、心の安定、学習意欲、大切な仕事」をモットーに、教育推進、保健衛生面、職業訓練などに役立てております。更生面では広大な自然の中で子どもたち、青少年たちとも傷ついた心を癒し、様々な活動を通じて自分に自信を持ち、積極的に他人とコミュニケーションを取るなど多大な効果が見られています。また、知識を深めることがそれぞれの能力に適した教育（一般の学校、学校外教育課程、職業訓練校など）にも繋がっております。



【I】「生き直しの学校」 チュンポーン校

チュンポーン校は元々13歳以上の男子青少年たちの麻薬の更生施設として社会的な自立を目指してまいりましたが、ここ数年は親の麻薬常用による育児放棄や虐待、貧困をもたらす家庭崩壊など問題が多様化しており、入所の対象となる青少年たちの年齢も低下して来たため、2016年からは受け入れの年齢を8歳以上に引き下げました。まだ親の愛情が必要にも関わらず、深刻な問題を抱えている幼い子どもたちは、入所当初、共同生活に戸惑うことも多いため、教職員は年齢や状態などに細心の注意を払い、個々に見合った指導をしています。

青少年たちは日々の活動により健全な育成を図り、メディアによる外部情報から知識を深め、支援してくださる方々の訪問時には自ら感謝を表明したり、交流の喜びや感動を教職員達に伝えるなど、大きな変化が見られています。

また、施設での農業やベーカリーなどの職業訓練や地域の学校で行われるスポーツや英語のカラオケ大会、学力カップなどで受賞するなど、それぞれ得意な能力が大いに活かされています。



また、今年6年前から入所しているウォーラウト（ニックネームはアイス、16歳）が国籍を取得することができました。アイス少年は父親が麻薬犯で服役し、母親が出稼ぎに行ったことから祖母と暮らしていましたが、生活は大変苦しく、また勉強が不得意なことから小学2年生で不登校になりました。10歳のとき、バンコクで働く母親と暮らし始めましたが、母子ともに国籍がなく、アイス少年の出生証明書もないため、国の恩給を受けることができませんでした。学校へ行かず、遊んでばかりいる彼は当施設へ送られ、同時に当財団の弁護士による母子の国籍取得申請の日々が始まりました。しかし、父親が刑務所にいるため書類がなかなか揃わず、また出生証明書がないことから母子のDNA鑑定が必要になるなど難航しましたが、6年かけてようやく取ることができました。



1. 2016年度青年たちの入所状況（男子合計25人）

年齢	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20以上
人数	1	1	—	2	1	4	3	2	2	2	2	—	5
学年	小学生8、中学生5、職業訓練学生1、学校外教育課程（小学部1、中学部3、高校部4） ※学習能力に問題がある、入所したばかりなどの理由から教育課程を受けていない3												

2. 青年たちの活動

・親子対面式

2016年6月25日、青少年たちは保護者と対面し、互いの状況を理解し合うよい機会となりました。父母に感謝の意を込めるとともに、教職員にも同様に敬意を表します。僧侶から教えを聞くことで、心が洗われ、大変満たされた時間を過ごすことができました。



・寺院にて自己開発セミナー

更生期間中の青年たちの心を落ち着かせていくために、月に一度、僧侶を招いたり寺院で仏教の教えを聞いて道徳心を学んだり、集中力を養ったりしています。仏教行事では喜捨をするなどして徳を積んでいます。



- ・食事や薬等の提供

青年たちの健康面を考慮し、栄養のバランスが摂れた食事を提供しています。また、生活必需品や軽傷の手当ができるように救急箱を備え、活動中に必要な衣類と靴を身に着け清潔を保つ習慣をつけています。



- ・青少年達の権利

10月8～9日、チェンマイにて「平等な社会における子どもたちの権利」をテーマにした講習会が開かれ、3名の青年たちと教職員が参加しました。自分たちが保障されている権利やそれにおける問題の解決法を学び知ることで、自信を身につけました。



- ・アート活動やお菓子づくり（ベーカリー）などの実習

将来に必要な学びや自分の可能性を見出すことができます。



・スポーツ活動

健康面においては、青年たちの1日のプログラムになっているように、朝5時半から6時半、夕方4時から5時半までスポーツをして身体を鍛えています。



・音楽活動



・図書室の利用

知識を深めて情報を得るために、図書室に新聞、書籍を購入し、VCD観賞、コンピューター、英語を学びます。外国の映画やニュースを見ることもできます。



・カウンセリング

ラマー病院からカウンセラーが訪れて一緒に活動を行いながら、青年たちの相談を受けています。



3. 職業訓練教育（農業、畜産、その他）

農作業においては、植林や無農薬野菜の栽培、苗木の栽培、堆肥づくりなど、青少年たちが社会に巣立って自立できるように指導しています。



・エンジェルキノコの栽培



・堆肥づくり



【Ⅱ】「生き直しの学校」カンチャナブリ校

2016年の1月から7月にかけて、猛暑により生活から農業に至るまで深刻な水不足に見舞われました。地下水も干上がってしまったため、掘り下げ作業が行われましたが、十分な水は得られませんでした。そこで、教職員たちは自治体及び軍の水道施設に申請を重ね、週に2回、1回につき6000リットルの水が供給されることになりました。生活用水においては、日本の方々の寄贈によるアブラヤシ運搬用トラックでサイヨークの軍事施設へ1日に数回、飲料用水をもらいに行ったり、農業用地にはクウェー川付近から水を運んで凌ぎました。

また、アブラヤシ農園も大きな被害を受けたため、深さ8メートルもの巨大な貯水池を建設しました。



教育面においては、成長した少年少女たちがラチャパットカンチャナブリ大学やバンコク都のラムカムヘン大学、ラチャブリー県の農業高等専門学校など、それぞれの夢に向かって進学しました。小中学生も外国人の訪問客に自ら進んで英語を話すようになったり、作文や絵画コンクールで優勝したりと、それぞれ得意分野を活かし、日常生活面においても積極的に行動しています。施設面では新しい男子寮が完成しました。





1. 2016年度子どもたちの入所状況（男子27人、女子38人）

グループ別	年齢	人数
女子	4～10歳	20
	11～30歳	18
男子	3～17歳	27
合計		65

教育開発面について

入所者の年齢と学力に応じて近隣の小中学校などで一般教育を受けています。プラティープ財団では、そのために必要な教材費等学習に関わる諸経費を支出しています。また、途中で入所したため、新学期から就学する子たちに対しても必要な教材費等を揃えるようにしました。

① 一般教育

No.	学年別	人数	学校名
1	幼稚園～小学生	47	バーントウンサーラー校
2	小学6年生	1	ナコンパトム県の小学校
3	中学生、高校生	8	カンチャナブリ県立学校1
4	専門学生	3	ラチャブリー県の農業高等専門学校
5	大学生	2	ラーチャパットカンチャナブリ大学
6	大学生	3	バンコク都のラムカムヘン大学

	合計	64	
--	----	----	--

*備考：施設内で生活指導を受けている子 1人

2. 子どもたちの発育面について

◎少年少女たちの活動

・親子対面式

2016年6月18日、19日の2日間、入所している子どもたちの父母や保護者を招いて親子対面式を行いました。僧侶を招き、祈禱をし、お話を聞くことで心が洗われます。子どもたちは父母だけでなく、教職員にも同様に感謝と敬意を表します。この親子対面式を通じて、親と子それぞれが家族を思いやる大切さを理解するようになるのを期待しています。



・寺院にて自己開発セミナー

更生期間中の少年少女たちの心を落ち着かせていくために、寺院で仏教の教えを聞いて道徳心を学んだり、集中力を養ったりしています。仏誕節や入安居などの仏教行事では喜捨をするなどして徳を積んでいます。



・タイ正月

2016年4月15日、少年少女たちは施設長のミンポーン先生と財団創設者のプラテープ先生を始め、教職員や訪問客の手に水をかけてお清めをし、敬意を表してから大いに水かけ祭りを楽しみました。



◎少年少女たちの生活

・健康面と衛生面

当施設では、栄養のバランスがであるように救急箱を備え



まし、衣類を清潔にすることなどを指導しています。共同生活なため、整理整頓と管理についても協力し合います。



・宿泊施設

宿泊施設は4ヶ所に分け、少年少女たちは規則正しい生活を送っています。

①男子寮（3～10歳の男子）



②男子寮（10～18歳の男子）



③女子寮（4～12歳の女子）



・運動の時間

毎朝5時半から6時半まで体操をし、夕方5時ごろには様々なスポーツをして身体を鍛えています。



・様々なアート活動、瞑想

少年少女たちが明るく表現力豊かになるよう、余暇を利用して様々なアート活動を企画しています。子どもたちはそれぞれ興味がある分野に取り組み、活動を通じて豊かな感性や想像力が育まれ、楽しさを知ることができます。また、明朗さを培い、何事にも積極的に意見を述べられるように芝居に取り組んだり、読経や瞑想などを行っています。

・音楽



・ 絵画、粘土細工



・ 図書室の活用

図書室では読書やお絵かき、英語の補習授業など有効な時間を使っています。訪問客に対して恥ずかしがらずに英語であいさつをして言葉を交わす子ども達も多くなりました。



◎モンテッソリー教育

様々な環境から入所してきた子どもたちの道徳面や生活面に役立つモンテッソリー教育は、施設のカウンセラーであるサシナン先生が指導を担当しています。これにより、少年少女たちは整理整頓をきちんとするようになり、共同生活における自分の役割に責任を持つようになりました。また、思考力を養成するために鑑賞した映画の内容をまとめたり、意見を述べ合うことで自分の価値を見出し、他人を尊重することができる指導をしています。



・キャンプ体験を通じて、日々大切さを学



3. 職業訓練教育について

当施設では子どもたちの将来に必要な学びのために、農業やお菓子づくりなど様々な職業訓練教育を実施しています。

◎無農薬野菜の栽培

野菜の作り方を学ぶために、子どもたちは5歳から自分たちで栽培し、育てて行きます。実際に自分たちで種を蒔く準備から水やEMエキスを混入するなどの手入れをすることにより、野菜ができるまでの過程と技法を学ぶことができます。収穫した野菜やハーブ類は施設の食事に使います。



◎ベーカリー（お菓子&パンづくり）

13歳からの少女たちは将来的に職業として生計を立てていけるよう、お菓子やケーキ、パンづくりの方法を学んでいます。



◎ゴザ、ヘア飾り、バスマットづくりも定期的に行われています。



4. 人材育成面について

教職員たちは、子どもたちや少女たちを指導していく上でチームワークを大切にし、現場で役立つモンテッソリー教育やアートセラピーなどの研修に参加するなど、トレーニングを重ねています。また、模範的な施設を視察する機会も設けています。

